

街を行く

第137回 魚沼 Unuma

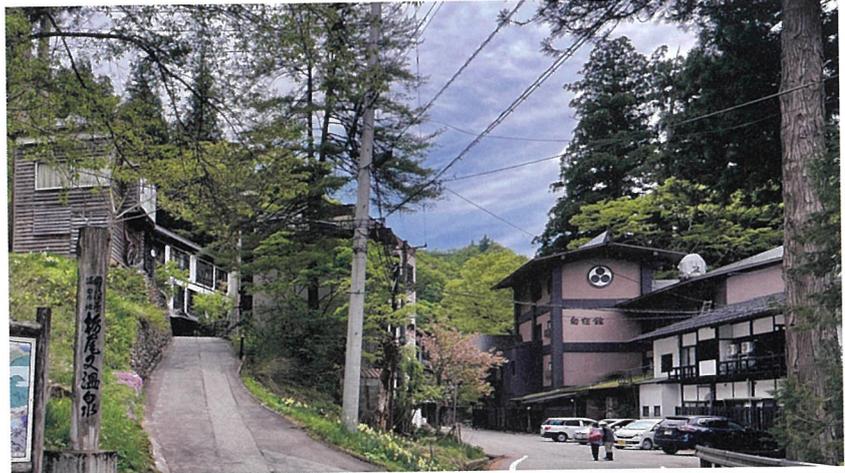
身体の芯までリフレッシュ

GWは観光で新潟県魚沼市にある「栃尾又温泉」を訪ねました。

周辺に3軒しかない宿のうち、今回お世話になったのは、元気な女将で有名な温泉旅館「宝巖堂」。湯の泉質は低温ラジウム泉。単なるぬるま湯なのですが、90分近くも浸かれば体の芯まで温まり、それが長い間続くという不思議な体験を楽しめます。湯の中で瞑想し心もリフレッシュした後は食事です。いただいた山菜料理は格別で、もう美味くてたまりません。食べすすむほど胃が癒されていく不思議な感覚があります。湯と食事で身体のおモチもウラもリフレッシュしてしまいました。

そのあとはやはり酒。東京から関越自動車道での道すがら、六日町インターで降り、「魚沼の郷」で仕入れてきました。郷ではまずお気に入りの蕎麦屋に立ち寄り田舎そばを食べてから「八海山」酒造元を訪ねるのが小生の流儀。雪室(1,000トン以上の雪を収容可能な冷蔵庫)で熟成した日本酒、ではなく個人的にはまっている米焼酎(独特の臭いはなく、繊細なコメの臭いとコクがたまらない)を買い込み、それを夜に堪能したというわけです。

翌朝は、朝ごはんは魚沼産コシヒカリの味を楽しみ「奥只見ダム」へ。そのルート上にある「奥只見シルバーライン」はある意味圧巻です。全長22.6kmのうち、なんと18.1kmがトンネル(計19本!)内なので、初めて通った時は行き交う車もなく、「いったい何時になったら抜けさせるのか」と不安な気持ちいっぱいハンドルを握っていました(今回は冷静に通過できました)。



温泉宿でくつろいだあと、長いトンネルを抜け、雪の残るダム湖を楽しみました

トンネルを抜けたらダム湖。まだ雪が残り除雪車が活躍していました。ダム近くにはキャンプ場があって、スタッフの方に聞くと営業は6月から9月いっぱいまでだそう。たったの4か月、残りは豪雪なのでしょう。いやはや雪国生活は大変ですね。しかし短い限られた時間を精いっぱい謳歌するのもよいものです。次回来るときは雪のシーズン、本当のローカルさを体験したいものです。経験したことのないロマンが待ち受けているでしょう。今年の冬は豪雪の街から記事をお届けしますので、懲

りずにお付き合いください。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。